

強化警察 壱課本部  
上志波 巡查長の失踪から  
一ヶ月

「何だこの捜査資料はっ!!  
コレだけオトナの男が揃って  
ゴロツキ共の巣穴一つも  
あぶり出せなかったのか!?  
フザケるなっ!あと遅い!!」

強化警察 壱課

ディアナ・沙羅・ドーベルマン

警視



「這ってでも  
捜し回ろうという  
気概は無いのかっ  
だらしの無い」

「全く…我々壱課が  
アレだけの恥を  
かかされたんだぞ」

「まあまあ沙羅ちゃん  
今は労働時間の  
問題とかもあるし…  
優しくしてあげて?」

「そうして甘やかすから  
今の強化壱課が  
貧弱になったのだ」

内間室長



強化警察 壱課  
うちま'おおり  
内間 大和  
警視正

室長  
警視正 内間 大和

バキィ



「カルテルなんぞ私がK9にいた頃に根絶やしにしてやれば良かったんだ」

「そもそも私が現場に出れば今頃奴ら全員血祭りに挙げていると言うものを…」

「ハハハ…それはもう昔の話だよ沙羅ちゃん強化警にも色々と事情があるんだよ」



「済まない内間室長緊急招集がかかったいつも通り単独で動かせて貰うぞ」

「ハハハ…形式的にも私は君の相棒なんだがね…」

カッ

カッ



今の志課は甘すぎる…

安全な強化剤の取り扱い勤務時間 パワハラ問題

そんなものにかまけていては奴らカルテルに太刀打ち出来る訳がない

カルテルを潰すために私は手段を選ばない

例え非合法だったとしても…

ハッ

ハッ

こうしてカルテル側の人間に  
秘密裏に接触し懐深く潜り込み！

バしない内に  
潜入調査を進めるくらいの  
気概が無ければならない♡

「以上が：我々強化警察が  
お前たちカルテルについて  
掴んでいる情報だ！」

「私の部下たちが必死になって  
集めた内容だ出来は悪いが…  
何か貴様の役に立てればいいのだが…」

待て…潜入調査？  
警察内部の情報に  
カルテル関係者に  
喋ってしまったって  
良かったのか？

「それもこんな場所  
こんな格好で…  
私の目的は何だった？」

「成程警察も  
おバカさんでは  
ないようですねw」

セツッ



「まあこの程度では我々の  
拠点を潰すことなど夢のまた  
夢でしょうが…W  
調べが甘すぎますよW」

ムワァァァ

### 強化剤カルテル幹部B

強化剤によりフェロモン機能を強化。  
自身のフェロモンを自在に操ることで  
任意の女性を魅了し、疑似的な  
催○、洗○状態にする事が出来る。

「うう…ウチの無能な部下が…  
調べが足りず情けないばかりだ  
ゆっ…救じてやってくれ…」

「無能なのは前からですよW  
それに貴方の協力のお陰で  
カルテルも随分動きやすくて  
助かっていますよ♡」

「よく出来たね♡沙羅♡」

そうだっ♡  
コレで良いんだ♡

私はコイツの役に立てるように  
動いていれば良いんだ♡  
そうすれば…♡

ハァ…♡

「うう…♡  
頼むう♡今日も  
私の乳首にい♡  
ご褒美くれっ…♡」

「ふふふWご褒美欲しい子は  
どうするんでしたか？」  
情報と引き換えに  
ご褒美を貰えるんだ♡♡





「ふんふん」  
自分で自分の乳首  
いじって負けるんだよ？  
偉いね」

コイツだけは  
情けなく負けちゃっても  
褒めてくれるっ



「オスちゃんぽ」  
媚びながらですよ？  
何度も練習させたから  
上手に出来るよね？」

おおおおお  
このおこ来たあ  
無意識で乳首コネコネ  
こっこきゅう



負けたい♥負けたい♥  
コイツの匂い嗅ぎながら  
乳首で負けたい♥♥

もっとコイツの役に立って  
褒めて貰いたい♥♥  
乳首負けるお♥まける♥まけるっ

オスちゃんぽ

ゴッ



イキぐせ  
負け癖の付いた  
ただの雌に  
されてしまっー♡♡

あーっ

あーっ

「上からの指示で  
マンコ穴だけ  
使えないのは  
残念ですが、  
その分このケツ穴も…」

あーっ

あーっ

バキュー

バキュー

バキュー

「ふふふww  
ごつい筋肉の割に  
メスの部分は柔らかくて  
抱き心地も良いですね♡  
沙羅は♡」

あーっ

ダメだ♡  
負けたくなくても  
この男♡  
好き放題されて…

「このだらしなしく  
育ったデカ乳首もっ♡」

あーっ

あーっ

ほっ

ほっ

だーっ  
だーっ  
だーっ

カラダが勝手に  
悦んでしまっ♡

あーっ





コイツの為なら  
いくらでも  
買いでやるっ♡♡

『むちゅむちゅむちゅむちゅ♡  
ごっくん出来ぬかっ♡』

『せつと結ぶごっくんが  
私のアナルにもって  
お前のイケメンチンポ  
容赦なく擦りつけろが』

「ふふふWいい子ですね沙羅♡  
だらしなくいおねだり出来て♡♡」

「ご褒美に沙羅の弱〜い下♡  
全部ほじくり返して  
あげますからね♡」

そうすればまた  
ご褒美して貰えるんだ♡  
雌の部分いっぱい♡  
負かして貰えるんだあ♡

もっくもっく

もっくもっく

ムッムッ

もっくもっく

「ほら沙羅♡  
ご褒美貰った雑魚メスは  
何で言うんでしたか？」

「うう♡今日もお…♡雑魚の  
カラダにご褒美くれてえ…感謝  
するう…♡これからも…  
言う事聞くかりやあ♡」

「いい子にするから♡私のお…♡  
沙羅の雑魚乳首とお♡  
ケツまんこの面倒をお…  
見てやってくれえ♡」

「私は間違っていないんだ…♡  
だってこんな気持ちのローター  
我慢する方がどうかして…のだから♡」

「それから？次回までじゃいんやん♡  
何でしたか？復唱しなさい」

「うお…♡次回までに♡  
我ら強化警察のお♡  
人員や施設の内部資料も♡  
集めてきてっ♡詳細に報告っ♡  
ぐうぐう♡」

「途中でやめないよ？  
復唱を続けなさい」

「おがおお♡するのせするのせ♡  
一回乳首じよりせより止めろあっせ  
それ弱いからっせうおおお♡  
また負けりゅうぐうぐう♡  
また負けりゅうぐうぐう♡」

「だからご褒美貰ったう…  
早く本部に帰って内部資料を  
集めなさいっ…♡」